

# 茶いっぺの文化が つなぐ霧島の観光へ



山元 紀子さん

河内源一郎商店  
バレルバレープラハ&GEN (溝辺)

たくさんの魅力的な素材は霧島の財産です。弊社でも麴を使った「健康 × 観光」の企画をあたためています。いろいろな組み合わせを、皆で楽しみながら発信したいですね。



お弁当の配達や遠方への農産物の詰め合わせの発送など、地元を味わう入り口を広げています。

左から、寺崎 直実さん、永岩 精一さん  
古川 貴弘さん

西郷どん村物産館 (隼人)



杉川 明寛さん

きりん商店 (牧園)

「茶いっぺはどうですか？」と、人が座ってコミュニケーションがうまれる。ほかにない豊かな文化を日々味わえるって幸せですね。

「茶いっぺ」とは、昔から伝わる相手のことを気づかう表現です。どこに行ってもお茶がすすめられ、時には出会った人たちが自然に話し始める。そんなあたたかさを魅力に感じる観光客も多いようです。心に残る出会いや観光プラスアルファのストーリーが「また行こうかな」につながります。



新畑 幸一さん

(公社) 霧島市観光協会

地域の交流拠点になっている案内所もあります。気軽にお立ち寄りください。

## (公社) 霧島市観光協会

霧島市牧園町高千穂3878-114  
TEL 0995-78-2115  
営業時間 9時~17時  
年末年始のみ休

山あいから上がる湯けむりは、非日常感を十分味わえます。代謝の上がるマッサージをリーズナブルな価格で体験できますよ。



山下 大介さん

霧島みやまホテル (牧園)

## 心に残る出会いを

霧島市観光協会には、移動ができるようになった6月下旬から問い合わせが増えてきており、新畑さんは「霧島で癒されたい」という思いを感じているそうです。

観光協会では、「たくさん観光資源がありすぎて迷う」という観光客のために、丁寧にお話を聞いて、その方が選びやすいように厳選した情報を提供しています。

霧島市内のホテルは、ビュッフェスタイルの見直しや検温など、新しい生活様式に合わせて工夫を凝らしています。

もともと鹿児島県内や南九州からのお客様が半数以上という施設も多く、みやまホテルの山下さんは、「いざ霧島キャンペーン」で、地元霧島のお客様との再会や出会いを楽しみにしているそうです。

## 市民みんなで作る持続可能な観光地へ

河内源一郎商店の山元さんは、「観光は癒し」だと言います。

旅人は、ホテルや観光施設のみを見るのではなく、通る街並みや景観を通して、その都市の文化を知るそうです。霧島市でも

自治会の皆さんによる道路や駅の清掃などは、市民が作る霧島の豊かさだと感じているそうです。

## 子どもたちへ伝えたい霧島の魅力

普段から観光客と接することが多い、きりん商店の杉川さん。子供の学校のPTAで地元をめぐるツアーを企画しました。「気になっていたけれど行ったことがない」というところはあるもので、とても盛り上がり好評だったそうです。特に子供の頃の思い出は鮮烈に記憶に残るので、ぜひお子さんと一緒に楽しんで欲しいそうです。

## 顔が見えるコミュニケーション

西郷どん村の中にある日当山無垢食堂では、3世代がゆつくりくつろぐ姿がよく見られます。

地元の特産品や農作物、地元の食材をふんだんに使ったオードブルやお弁当、隣接するレストランのレシピなど、こまめに更新するインスタグラム(SNS)からの注目が増えているそうです。古川さんは、「顔が見える人から買いたい」というニーズの高まりを感じています。